



立教大学大学院

MBA Rikkyo Graduate School of Business Administration

募集要項

■2022年度入学選抜試験案内(秋季・春季)(博士課程前期課程)

専攻	募集人員	区分	入試区分ごとの出願資格	試験方法	試験時間	備考
ビジネスデザイン	90	一般	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、次の1・2のいずれかの条件を満たす者。 1.日本語を母語とする者。 2.出願時に日本において企業の代表取締役など経営者の職に就く者(雇用保険の被保険者とならない者)。	書類審査 課題エッセイ ^{*1} 口頭試問		*1出願時に提出する。ただし、次の1・2のいずれかにあたる者は課題エッセイを免除する。1.企業等の組織からの派遣により就学し、所属する組織の派遣証明書を提出する者 2.30年以上の実務経験かつ役員経験を有する者
		社会人	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、次の1・2のすべてを満たす者。 1.入学時までに2年以上の実務経験を有する者。 2.出願時に日本において企業等の組織で現職に就く者。	書類審査 課題エッセイ ^{*2} 口頭試問		*2出願時に提出する。ただし、次の1・2のいずれかにあたる者は課題エッセイを免除する。1.企業等の組織からの派遣により就学し、所属する組織の派遣証明書を提出する者 2.30年以上の実務経験かつ役員経験を有する者
		外国人	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、日本語を母語としない者。	書類審査 筆記試験 口頭試問	60分 (筆記試験)	

※選考方法など詳細は変更される場合がありますので、出願の際の入試要項にてご確認ください。

※博士課程後期課程は春季入試のみです。

■入試に関する問い合わせ先

独立研究科事務室 E-mail: biz-ad@rikkyo.ac.jp

閉室等、返信に日数を要する場合があります。

立教大学入学センター TEL.03-3985-2660

研究サポート体制

■奨学金

奨学生名	対象	給与金額(年額)
立教大学大学院給与奨学生	大学院学生	前期課程30万円 後期課程40万円
立教大学校友会独立研究科奨学生	社会人入試制度で入学した大学院学生	50万円

その他各種の学内奨学生制度を設けています。

■教育訓練給付金の案内

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科は、2018年度より「専門実践教育訓練給付金」の講座指定を受けています。支給の対象となるのは、前期課程に社会人区分で入学された方(雇用保険による支給要件あり)となります。この制度により2年間で最大112万円を受給できますが、給付金制度や支給要件に関する詳細は、厚生労働省のホームページなどでご確認ください。

■学会発表奨励金

大学院学生自らが国内および海外で開催される学会で発表する場合に、申請により、交通費・宿泊料・資料作成費の必要経費を対象として奨励金を支給する制度。

■池袋図書館

収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1530席を誇る、国内の大学でも屈指の大規模図書館。多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、学習・教育・研究を強力にサポート。

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科

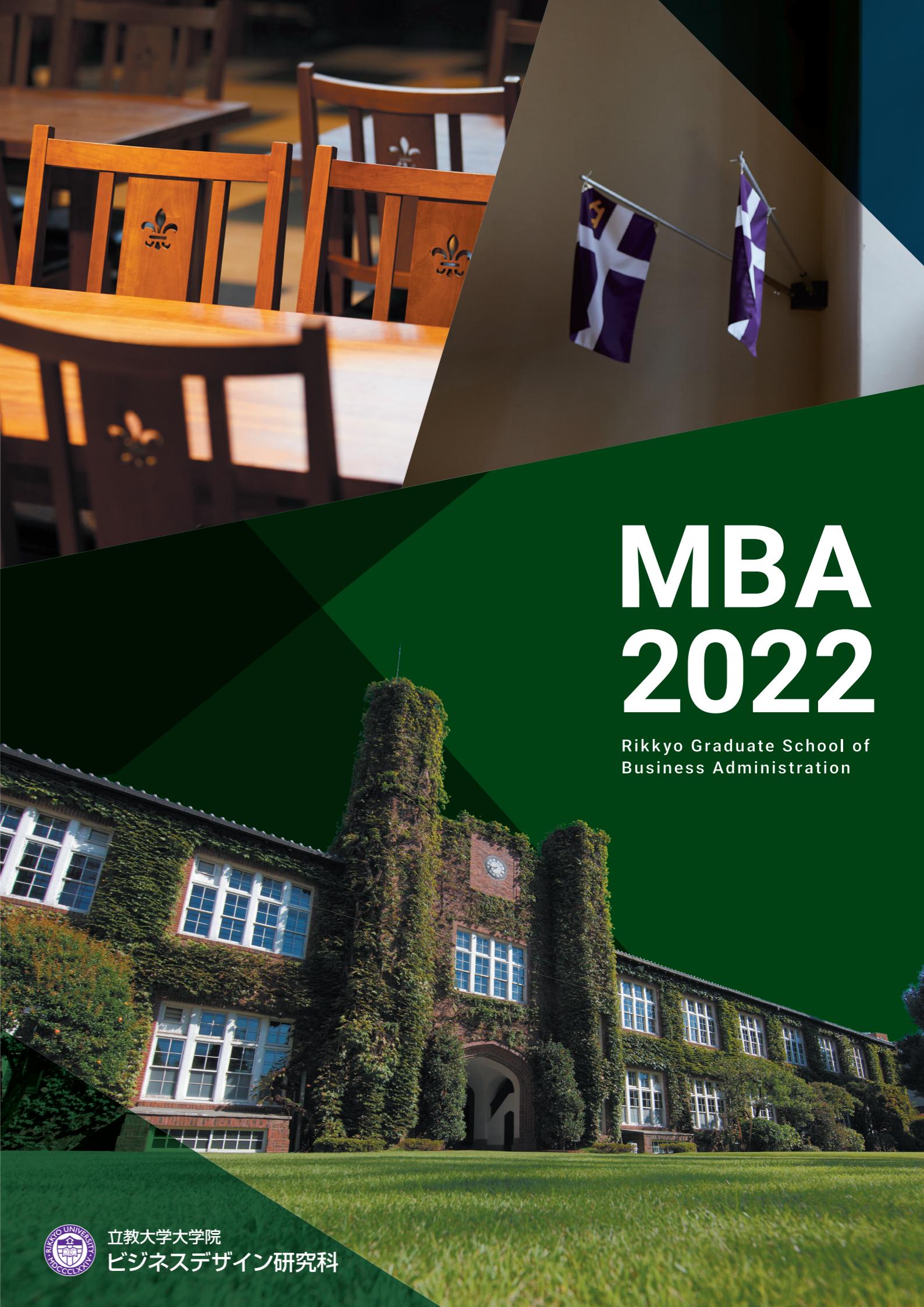
■研究科TOP

<https://business-school.rikkyo.ac.jp>



■入試案内

<https://www.rikkyo.ac.jp/admissions/graduate/>



立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科

ゼネラリストの スペシャリストを育成。 立教のMBA

ビジネスデザイン研究科は、これから日本が求める
ビジネスを「デザイン」する“眞のゼネラリスト”を育成。
未来の日本を創造する「ビジネスクリエーター」を創出します。

MBAプログラム

多様なモジュール・学習レベル
に応じた授業科目から、マネジメントの専門知識とノウハウを
修得する

Business Creator

ビジネスデザイン 研究科

経営を 俯瞰する力

戦略的意志決定の経験的学習
を通じて、ゼネラリストとしての
総合的・戦略的な判断力を身につける

事業構想の 創造的思考

新規事業提案プロジェクトやビジネ
スプランの策定に取り組み、新
たな価値創造の仕組みをデザイン
できる創造的な構想力を養う

ビジネス社会を鳥瞰し、
勇気と情熱をもって飛び立つ。
そんなビジネスクリエーターが
今の日本には必要です。

ビジネスデザイン研究科は、社会人のための
MBAコースです。MBAとは、Master of Business
Administrationつまり、経営管理学の修士です。私
たちの研究科は、単に経営管理学を修める大学院
ではなく、創造的な事業を構想し、持続可能な組織
を構築できる人材、すなわち、ビジネスをデザイン
するビジネスクリエーターを育成します。

世の中には多種多様な専門家がおります。専門
家と称される人々は、特定領域の経験や知識が必
要であり、その分野の経験を積み、知識を掘り下
げることが要求されます。弁護士や公認会計士、税理
士、あるいは医師や看護師などの専門職は、問題
を発見するために固有のスコープと問題解決のた
めの特有の「ことば」を持っています。しかし、事業
構想には、準備されたスコープも適当な「ことば」
もありません。変化する環境と経営資源の最適結
合を図るために、内外の知識を束ね、観察する問題
を発見し、利用するスコープと「ことば」を選択して、進
むべき方向を決定しなければなりません。狭い視野では見ることのできないビジネスの社会を
鳥瞰し、進路を決めて飛び立つ勇気と情熱を持つ
ビジネスクリエーターが必要とされています。

私たちが準備するカリキュラムは、みなさんが勇
気と情熱を手に入れるためのものです。多種多様
な知識を得るために、基礎的で入門的な科目を数
多く用意しています。苦手意識を克服するチャンス
もあります。私たちの研究科で学ぶ条件は、経営
に関する専門知識ではなく、学ぶ意欲や知的好奇
心、つまり知欲の大きさです。自らの専門性を離
れ、これまで触れたことのなかった知識を手に入
れることで、自らの価値を再発見し、その役割の重
要性や方向転換の必要性を認識してください。あ
なたがたの専門家としての知識や経験は、仲間と
の知的交流に役立ち、お互いの学習効果を高め、
私たちの進むべき方向を確信に導くはずです。



CURRICULUM カリキュラム

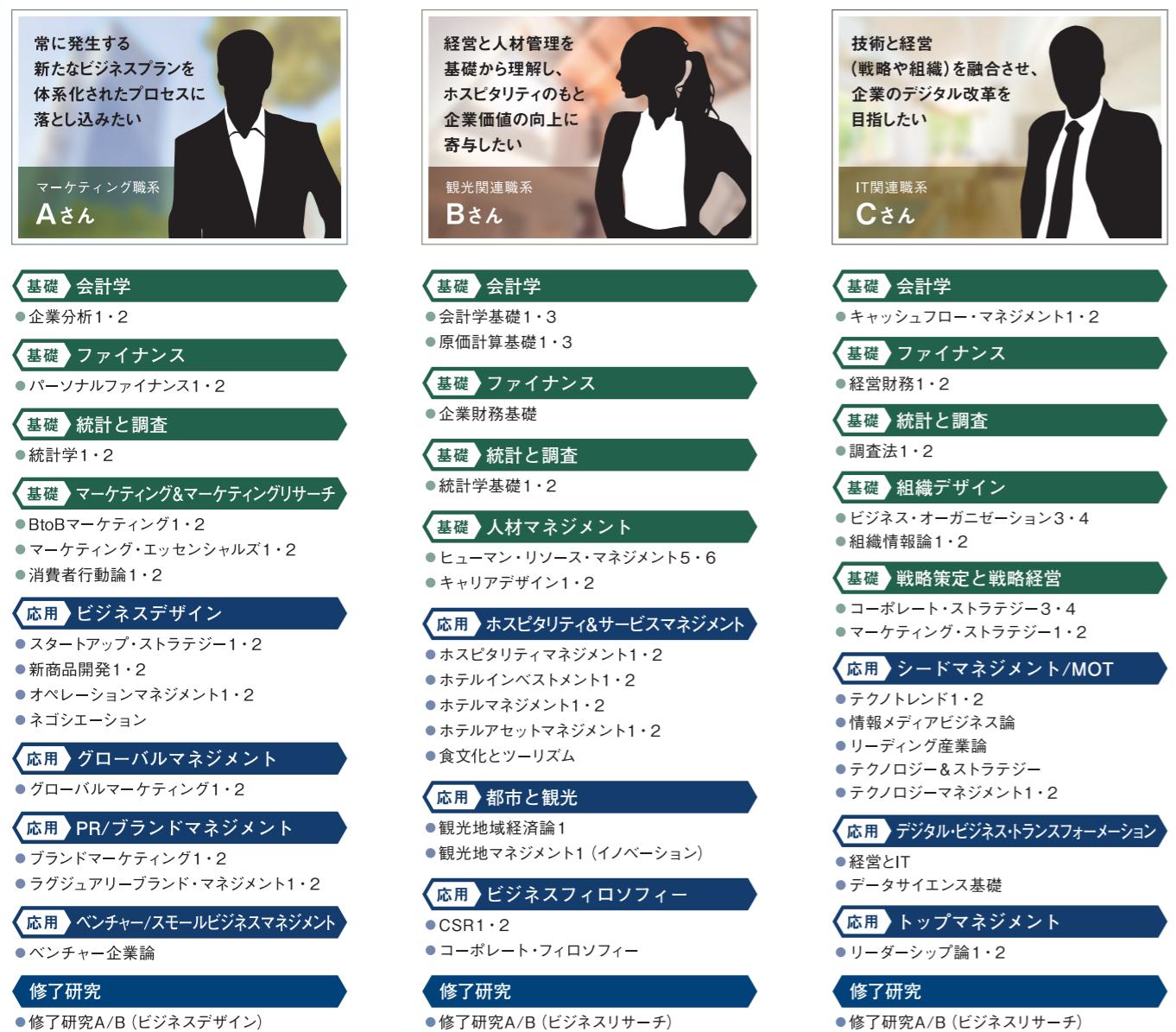
知識モジュール・システムによる多様な専門知識の修得

ビジネスデザイン研究科は、マネジメントの専門知識を修得するためのMBAプログラムをベースに、新たな事業を構想する創造的思考や経営全体を俯瞰して考える力を養うカリキュラムを用意しています。

カリキュラムは複数の科目から編成された「モジュール」の集合として構成されています。各モジュールは、知識修得の目的や課題領域、活動領域の関連性をもつ科目群によって編成され、大きく基礎理論モジュール、応用／専門モジュール、修了研究モジュールの三層から構成されています。

基礎理論モジュールは、「ビジネスクリエーター」としての戦略的/創造的思考を養う「ビジネスシミュレーション」、マネジメントの基本的知識を修得する「基礎理論」、MBAとしての分析手法や実践的スキルを学ぶ「基礎スキルと実践的知識」といったモジュールから構成されています。

モジュールによる履修のイメージ



応用／専門モジュールは学術領域によって編成されるのではなく、実際のビジネスや業務活動にとってどのような専門知識が必要かという観点から編成されています。例えばグローバル経営に必要な知識は何か、あるいはブランドマネジメントのために何を学ばなければならないか、といった点からモジュールが編成されています。修了研究モジュールはRBSの修了要件であるビジネスプランや修士論文等を作成するために要求される知識やスキルを修得するための科目群から編成されています。

RBSでは、院生の皆さんは自分自身の関心や修得したい知識やスキルといった目的に従って、モジュールを選択し、科目選択という手順を踏みます。

RBSではこうしたモジュールシステムを通じて、皆さんに身につけたい知識や修得したい能力に応じた学習計画の組み立てを可能にします。

SUBJECT

モジュールと科目群 多様な知識を修得する



科目内容は年度によって異なります。

ENDOWED COURSES

寄附講座

株式会社NTTデータ経営研究所

NTT DATA

株式会社 NTTデータ 経営研究所

アデコ株式会社



THE ADECCO GROUP

株式会社メディアフォース

mediaforce

一般社団法人ビジネスプロセス・アーキテクト協会

BPAp
一般社団法人ビジネスプロセス・アーキテクト協会
Association for Business Process Architect Professionals〒156-0044 東京都世田谷区赤堤1-33-14
Phone: (03) 4283-6795 Mail: jinmukyoku@bpa-p.org

一般社団法人日本データビジネス協会

JDBA
Japan Data Business Association**DX経営**

デジタルトランスフォーメーションを如何に実現していくのか?特に日本のレガシー企業で、どのようにDXに取り組むべきかを主題に、毎回、実際のビジネスの場で活躍する現役コンサルタントをゲストに向かえ、現場視点での事例紹介・討議を通じて、様々なDX経営の手法を探求します。

DX人財戦略

「VUCAの時代」と呼ばれる現代、デジタルの活用によりビジネスの継続的な変革を実現することができるDX推進人財が重要性を増しています。単にデジタルツールを用いるだけでなく、デジタル化によって組織に行動変容を起こすことができる人財となるために、本講座では、DX推進人財に求められる要素やDX推進人財が躍動する組織構築をテーマとして、体系的に学ぶとともに、討論を通じた探求を行います。

DX戦略論1・2

企業で、DXプロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供します。
実際の講義は、ケース・スタディ（グループディスカッションおよびクラスディスカッション）とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DXを推進する力を確立します。

経営とIT

本講座は、ITが企業・組織にとってより重要な役割を担うようになっている今日において、ITプロジェクトを真の意味で「成功」に導くための実践的知識や基本アプローチの修得を目的としています。経営とITにおいて、それぞれ異なる経験を有する複数の識者によりITプロジェクトの事例を踏まえてどのような問題に直面するのか、いかにそれを克服するか、プロジェクトの成否を決する要因とは何かなど、実践に基づく知見を講義します。

**・IT産業の変遷と情報化社会
・データサイエンス基礎
・デジタル・ビジネスプランニング**

本講座はデータの収集・加工・分析に優れた専門性を發揮し、各種データから経営にとって有効な知見を引き出すことのできる人材である「データサイエンティスト」の育成を目指すものです。「データサイエンス基礎」では、日本と米国で決定的な差がついているデータサイエンスの基礎学力に関して基本概念を理解し実践能力の習得を目指します。「デジタル・ビジネスプランニング」では、データサイエンティストの職務・役割としてのデータ活用プラン作成について、その手順・構成を中心に学び、プランニングを実施し評価します。「IT産業の変遷と情報化社会」ではビッグデータ、AIなど情報技術の革新を背景とする産業構造と社会の変化を理解し、今後の経済社会の変化を読み解くための知識を学びます。



株式会社博報堂

HAKUHODO
B I D

公益財団法人日本デザイン振興会

JDP公益財団法人日本デザイン振興会
Japan Institute of Design Promotion**ブランドデザイン**

現代のビジネスにおいて「ブランド」の重要性はますます高まっています。しかしながら、ブランドおよびブランドデザインの概念は誤解されやすく、適切に理解されていないことが少なくありません。本授業では、ブランドの基本概念と関連する不可欠な諸要素について体系的に学ぶとともに、演習を通じてブランドデザインのプロセスを体験し、授業は座学型講義とワークショップ型演習を組み合わせて実施します。

巣鴨信用金庫

SUGAMO SHINKIN

株式会社都市経済研究所

IUE**ランドマーク税理士法人****ランドマーク税理士法人**
Landmark Licensed Tax Accountant's Co.**客員教員****秋庭 孝俊** 客員教授ジェイエムエス・ユナイテッド株式会社
顧問**笠原 英一** 客員教授アジア太平洋マーケティング研究所
代表取締役社長**濱田 真樹人** 客員教授一般社団法人日本公認不正検査士協会
評議員**安部 哲也** 客員教授ソーシャル・ビジネス・EQパートナーズ株式会社
代表取締役社長**清田 幸弘** 客員教授ランドマーク税理士法人
代表社員**久恒 新** 客員教授株式会社都市経済研究所
代表取締役社長**井瀬 正彦** 客員教授株式会社野村資本市場研究所
常務**中村 二朗** 客員教授

中小企業診断士

宮澤 正憲 客員教授株式会社博報堂
ブランド・イノベーションデザイン局 局長**牛窪 恵** 客員教授有限会社インフィニティ
代表取締役**野中 淳** 客員教授株式会社NTTデータ経営研究所
情報戦略事業本部長**竹内 慶** 客員准教授株式会社博報堂
ブランド・イノベーションデザイン一部 部長

MESSAGE

教員からのメッセージ



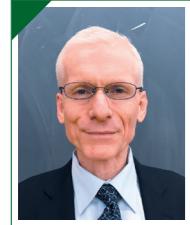
企業に課せられた役割は、社会が必要とする財やサービスを開発し、提供することです。環境変化が早い現代社会において、社会とともにニーズを実現できる企業が「価値ある企業」といえます。価値共創時代に必要となる知識や技能を共に学びましょう。

青淵 正幸 教授



新潟国際情報大学情報文化学部助教授を経て現職。専門は経営分析。現在の研究テーマは企業価値評価モデルによる株価説明力の検討。日本経済会計学会理事を務める。「要説経営分析〔五訂版〕」(森山書店,2016,共著)など著書・論文多数。

下川 智広 教授



ビジネスリーダーは、将来に向かって様々な意思決定を行わなければなりません。しかし、経済環境は不安定で曖昧に、競争相手の行動は複雑かつ益々変化が激しくなっています。多様な不確実な状況を恐れず、主体的に対応できる学びを実現していこう。

Andrew.DeWit 教授



災害等に強い町づくり、重要なインフラの強靭化・スマート化や低炭素エネルギー普及等の気候変動に対する緩和策及び適応策のガバナンスと技術の連携を分析する。先端的な取り組みを検討しながら、革新的なビジネスモデルと一緒に勉強しましょう。

福井 康子 教授



激変する世界政治、活躍する経済金融環境、次々に登場するエキゾチックなITソリューション。目まぐるしい変化の中で戦うビジネスパーソンとして、的確な状況理解と意思決定を行い得る実践的知識と、判断力の再武装に向けた機会を提供いたします。

和田 芳明 教授



社会人になってからの勉強は大変です。普段の仕事とは異なり、徹底して「考える」という行為は大変疲れます。しかし、それ以上に新たな発見、気づきがあります。学ぶほど、知らない世界が広がります。学ぶことの楽しさを経験してください。

平井 直樹 助教



良い研究を成し遂げる近道はできるだけたくさんの文献やデータを読み、検討し、整理することです。皆さんの経験を対立する見解も含めた様々な知識と対峙させ、融合することで、広い視野とより一般的に通用する知識を創り上げてください。

秋野 晶二 教授



慶應義塾大学商学研究科博士課程単位取得退学。専門は、経営管理論、工業経営論。現在の研究テーマはエレクトロニクス産業における生産体制・現代企業の成長様式と調整様式、グローバル・バリューチェーン、プラットフォーム企業など。

庄司 貴行 教授



ビジネスにおける理論と実践の融合には、他人の経験からの学びが不可欠です。ビジネスデザイン研究科は学び合いの場です。教員からはもちろん、他の院生からの学びを重視します。自ら積極的に学ぶと同時に、他人の学びを尊重する姿勢が求められます。

手塚 貞治 教授



環境が激変するこの時代にあって、最も大切なのは「考える力」です。当研究科は、みなさんが培ってきた現場経験と経営理論を融合させることによって、ビジネスにおける「考える力」を鍛錬する場となっています。みなさんのご入学をお待ちしています。

西村 剛 教授



博士（学術）。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。コンサルティング会社勤務（兼職）、中小企業診断士。主な著書に『戦略フレームワークの思考法』（日本実業出版社）、『技術経営の実践的研究』（共著、東京大学出版社）等。



企業経営において、M&A戦略が必要不可欠な時代となってきた。M&Aは、企業の成長・変革・生き残りのための重要な戦略実行ツールであり、事業戦略と財務戦略がM&Aの両輪となって顕在化する。これからビジネスリーダーに必須のM&A実践力を養成します。

古川 英一 教授



早稲田大学理工学部卒、英国立レスター大学MBA（ファイナンス）修了。早稲田大学大学院非常勤講師を経て、今年度より本学勤務。野村證券株式会社を経てM&Aファイブ（株）TMACを創業し代表取締役社長。25年以上に亘りM&A業務の第一線で活躍。

大山 利男 准教授



本研究科には多彩なバックグラウンドの教員と院生が集まり、独学では学べない学びと刺激に満ちています。多彩な人たちとの学びは、ビジネスに関する知識やスキルを身に付けるだけでなく、議論が想定外に発展したり新しい発見があります。ぜひ一緒に学びましょう。私も学び続けています。

高柳 寛樹 准教授



立教大学大学院農學系研究科博士課程単位取得退学。専門は農業経済学、農業政策論、フードシステム学、地権農業推進政策・認知表示制度等の国際比較、有機市場データ収集・分析手法に関する研究プロジェクトに審査、財政政策委員会、農林水産省農林水産政策研究所等を経て現職。主要著書・論文：「有機食品システムの国際的検証」（日本経済評論社,2003年,単著）、「環境保全型農業の新展開 国際的な比較から」（フードシステム研究,2006年,単著）、「有機農業がひらく可能性」（ミネルバ書房,2015年,共著）など多数。



私たちは、自分の中に無意識に、つくりあげられた固定観念、思い込み、思考枠の中にいます。所謂、これらの「凝り」をほぐし、時には壊し、そのことにより、自身の中に新たな「気づき」「行動」「成果」を獲得してください。

斎藤 明 教授



博士（国際広報メディア）。北海道大学国際広報メディア・観光学院博士課程単位取得退学。研究関心領域は、観光消費・旅行者の情報行動研究等。民間企業勤務等を経て現職。『マーケティング・オン・ビジネス』（2016年 新世社 共著）



社会人の皆さんのお経験は重要な資源ですが、グローバル化した今日の経営環境では、経験のみに頼ることはできません。ビジネスデザイン研究科では、MBAの専門教育をベースに戦略的な判断力と創造的な思考力を鍛え、皆さんのが更なる飛躍をお手伝いします。

高岡 美佳 教授



博士（経済学）。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。専門はリテラルマーケティング。主な研究テーマは、ブランドマーケティング・企業間関係・消費者行動とブランドイメージなど。『入門 現代企業論』（2004年 新世社 共著）など著書・論文多数。経済産業省、国土交通省など各省庁の委員を歴任。



全会社数の99%を占める中小企業の三分の一にあたる127万社が後継者不足により廃業の危機にあります。新規起業も重要ですが、まずはRBSで学んだ知識を活かして、1社でも多く皆さん方で事業を継承し、実践の舞台で夢を花咲かせましょう。

西村 剛 教授



1978年ANA入社。2006年神戸大学経営学部・経営学研究科准教授を経て、2010年ANA総合研究所に在職し、立教大学観光学部などの非常勤教授を歴任。論文に「新世代機導入による経営システムのイノベーション」など。

野田 健太郎 教授



昨日とは違う明日を創るために必要な能力は、「問い合わせて「答え」を導き出す力です。従来はアカデミック領域で必須のこの思考力は、今後はビジネス領域でも求められます。実務家だからこそその「問い合わせ」を踏み込んで思考し、社会に還元しましょう。

山崎 京子 教授



外資系（英、米、仏）企業で人事実務を経て筑波大学大学院ビジネス科学研究科・神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了。博士（経営学）。専門は組織行動論、人的資源管理論。JICAのHRM教科主任、日本人材マネジメント協会副理事長。

中山 伸彦 教授



経験という暗黙知を形式知に置き換えることでその先の風景が見えます。更にそこに実務という体験を付け足し咀嚼することで光が見えてきます。スタートアップやテクノロジー経営の本質はこの繰り返しです。大学で研究という手段を使い皆さんとコレに取組むのが楽しみです。

高柳 寛樹 准教授



立教大学大学院社会学研究科博士課程前期課程修了（修士・社会学）。学生時代にTECHベンチャーを創業して以来20年以上、連続起業をしながら高等學校から立教大学院まで幅広い世代の教育プラットフォームでスタートアップや技術経営について長く教鞭をとっている。IT前提経営やSuperMobility™の提唱者で、自ら超移動しながら生活している。著書に「IT前提経営」が組織を変える～デジタルネイティブと共に働く（近代科学社）他多数。

安田 直樹 准教授



経験を積むことは一貫性の強化につながる一方で適応性の欠如をもたらします。経験を棚卸し・分解して新たに得た知識と組み合わせることで、新しい景色が見えてきます。研究科で主体的に学び、是非飛躍のきっかけを掴んでください。共に挑戦していきましょう。

安田 直樹 准教授



博士（商学）。慶應ビジネススクール、同大学院商学研究科後期博士課程修了。博士課程在学中Copenhagen Business School留学。ビジネスデザイン研究科、東京理科大学経営学部を経て2021年度から現職。専門はマクロ組織行動論、経営戦略論、Global Strategy Journal誌など、論文・著書多数。



本学でのホテルマネジメント科目は観光学的アプローチはとらず、収益を持続的にあげる経営手法について学び、それを自社のケースに応用できる力を身に着けることを目標にしています。他のサービス産業にも応用できますのでご期待ください。

一橋大学経済学部卒業、コネル大学ホテル経営学部修士課程修了。日本長期信用銀行、グリニッジナトウエスト証券を経て、ジョージスラーサーラー株式会社執行役員・取締役を歴任。現在、株式会社フレイビック代表取締役。立教大学観光学研究所監修、財団法人宿泊施設活性化機構理事、共著に「ホスピタリティマネジメント」（生産性出版）、「ホテルのリクエストマネジメントマニュアル」（総合ユニコム）、翻訳協力に「米国ホテル会計基準」（税務経理会社）など。

「目標をもつ勇気は進化する力となる」。大学院進学に当たって、是非とも自分自身の目標をもち、さらにそれを進化させていってください。キャリア上の目標だけではなく人生100年時代の人生目標をもってここで学ぶことをお勧めいたします。

シカゴ大学MBA。専門はストラテジー＆マーケティング及びリーダーシップ＆ミッションマネジメント。著書に「GAFA×BARTH」「アマゾン銀行が誕生する日」など多数。TV・新聞・雑誌等のメディアでも論考を積極的に発信中。

今や企業や組織には、単なる経済的な価値だけでなく社会的な価値の創造も求められています。私たちの研究科では、SDGs（持続可能な開発目標）に关心を持つことを通じて、みなさまといっしょに、新たな企業価値の創造に挑戦していきましょう。

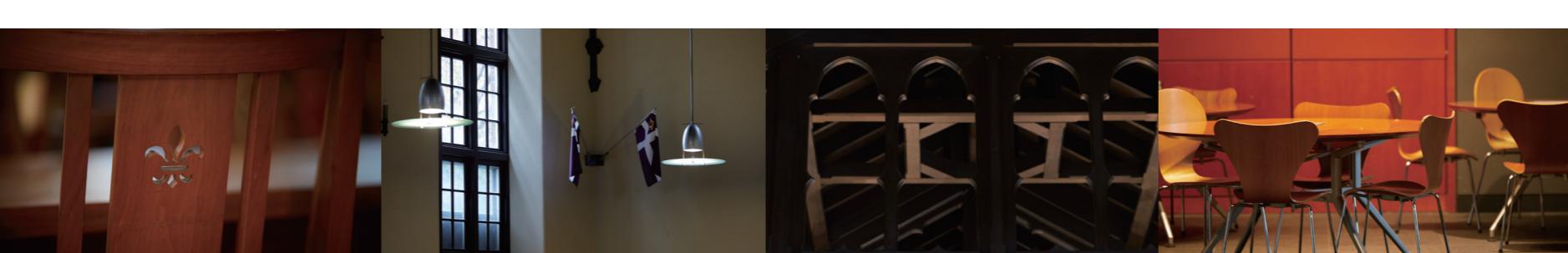
博士（商学）。一橋大学大学院商学研究科修了。日本政策投資銀行・設備投資研究所などを経て現職。専門は事業継続計画、企業の社会的責任、財務会計。著書は「ペーパーベース化論入門」（大学教育出版 2004年）、「事業継続マネジメントBCMを理解する本」（日刊工業新聞社 2006年）、「事業継続計画による企業分析」（中央経済社 2013年）、「戦略的リスクマネジメントで会社を強くする」（中央経済社 2017年）など。

人間の強みは著しい学習能力にあります。環境変化が激しく不確実性を増している今こそ、私たちは学ばねばなりません。研究科での学習を通じて皆さんのが自己の能力を培い更なる飛躍を実現できるよう応援します。

立教大学助手、尚美学園大学専任講師を経て現職。博士（経営管理学）。The York Management School CEGBI Associate Fellow。企業の創造的能力と組織デザインに関する理論的、実証的研究が現在の研究課題。

経験を積むことは一貫性の強化につながる一方で適応性の欠如をもたらします。経験を棚卸し・分解して新たに得た知識と組み合わせることで、新しい景色が見えてきます。研究科で主体的に学び、是非飛躍のきっかけを掴んでください。共に挑戦していきましょう。

博士（商学）。慶應ビジネススクール、同大学院商学研究科後期博士課程修了。博士課程在学中Copenhagen Business School留学。ビジネスデザイン研究科、東京理科大学経営学部を経て2021年度から現職。専門はマクロ組織行動論、経営戦略論、Global Strategy Journal誌など、論文・著書多数。



FACILITIES

学習環境・施設



社会人の創造的な学びを支援する学習環境

ビジネスデザイン研究科では、社会人が日常業務の忙しさから離れて、知識の修得や創造的な思考に集中するための環境を整備しています。



池袋図書館

池袋図書館は、収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1530席を誇る、国内の大学でも屈指の大規模図書館です。総合学習図書館および研究図書館としての2つの機能を維持するとともに、多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、社会人の皆さんの学修・研究を強力にサポートします。

図書館にはグループ学習室8室、多目的に使える講習会室2室が用意されているほか、個人またはグループのための創造・相互作用の空間「ラーニング・スクウェア」があります。また、図書館内全域で無線LAN利用が可能で、貸出PC含め600台のPCを設置し、ICT環境が整備されています。

図書館の開館時間は、平日は22:30まで、土曜日は20:00まで、休日も開館しており、大学院の授業後に図書館で資料を収集したり、文献を探すこともできます。

また、図書館では各種のオンラインデータベースやオンラインジャーナルを用意しており、学内LANからすべて利用できます。一部はリモートアクセスも可能です。

新聞記事や雑誌記事、日本企業やグローバル企業の財務データ、業界や産業のデータベースなど関心に応じてさまざまな調査や分析が可能です。



ビジネスデザイン研究科前期課程 院生室

マキムホール4階には、ビジネスデザイン研究科院生のための院生室が用意されています。院生室フロアの入口は、カード錠(学生証)によって入室管理されており、院生のみが使用できるようになっています。院生室は、平日は8:30から23:00、土曜日は8:30から20:00、休日は8:30から19:00の時間帯で自由に利用できます。

院生室には、パソコン21台とプリンタ5台が備え付けてあり、院生は自由に使用できます。自分のパソコンを接続してインターネットや印刷を行うことができます。また、事務室ではノートパソコンの貸与も行っています。院生室のパソコンには、MBAの授業で使用するSPSSやAmosといった統計ソフトウェアがインストールされています。さらに、ARGUS

という不動産評価のためのソフトウェアも使用することができます。もちろん図書館が提供する各種のオンラインデータベースやオンラインジャーナルも院生室から利用できます。

院生室フロアには、院生室のほか、共同ラウンジや共同院生室が用意されています。共同ラウンジや共同院生室は、他の院生とのミーティングや研究会、グループワークなどに利用することができます。日常の職場では得られない、自由でオープンな議論を交わすことができるでしょう。



**仕事が出来る人間になりたい!
もっと会社で活躍したい!
起業したい!**

ビジネススクールで学びたいと考えているビジネスマン・ウォーマンの皆さんには、今の自分と理想の自分との間に何らかのギャップを感じているのではないでしょうか。

何を隠そう8年前の私は、このような理想と現実のギャップに悩みRBSの門を潜りました。

そんな私にとってRBSで過ごした日々は大変充実した時間となりましたが、その中でも私を“起業”という道に導いてくれたのは、ビジネスゲーム・ソフトを使って仮想の企業運営を行う「ビジネスシミュレーション」の授業でした。当時、現実の職場では何の役職も無い私でしたが、「ビジネスシミュレーション」の中では、なんと社長という大役をさせて頂くことになってしまったのです。

その後、卒業と一緒に起業し、現在は小さな会社を経営している私ですが、当時の私に起業という道に踏み出す勇気と自信を与えてくれたのが、この仮想の社長経験だったのです。

みなさんも、このRBSの名物授業で、理想への第一歩を踏み出してみませんか。



01

今井 英之 さん

株式会社ブリー 代表取締役社長
BLOOM&STRIPES 代表

**RBSでの学びと、
世代を超えた仲間との出会いが
起業家としての新しいキャリアを開いてくれました。**

現在は入学時の会社員勤務と並行して、在学中に始めた、首都圏の働く子育て家庭を対象としたベビーシッター事業、シングルマザー家庭を対象としたシェアハウス事業を行っています。

RBSに入るまでは自分が事業を始めるなど考えられませんでしたが、ここで得た刺激、フィールドワークやコンテスト等、入学後にとても多くの機会があり、新たな道を見つけることができました。学術・実務的な力をつけることはもちろんですが、何より多くの魅力的な方々と世代や義務を超えて、切磋琢磨し合える経験が自分の大きな軸になりました。RBSはカリキュラムを見ただけでは伝わらない魅力に溢れています。特に得られたネットワークは修了してからも多いに助けられています。社会人学生というユニークな時間、何かを学びに来るという姿勢だけではなく、ぜひ主体的に動き、想像もできなかったキャリアを見つけて貰えれば幸いです。



03

羽根田 里志 さん

大手自動車会社R&D部門勤務
Find Sitter代表

02

高山 泰仁 さん

株式会社 旅工房
代表取締役会長兼社長

**会社設立20期を目前として
「会社は誰のものなのか?」
自分なりの答えを見つけたく
大学院への進学を決めました。**

ファイナンシャルマネジメント、企業財務基礎、財務会計、会計学基礎、原価計算基礎など、苦手意識を持っていた授業を中心に履修しました。授業を通じ多くの知識を得たことで、今では俯瞰的に物事を見られるようになりました。授業は座学だけではなく、「ビジネスシミュレーション」の授業では、何度も話し合いを重ね、経営計画書をグループで作成しました。メンバーそれぞれが実際の役職とは違う立場となり課題を進めました。私も経理財務部長としてシミュレーションを行う中で、部下としての立場や気持ち、意思決定の受け取り方を体感できました。現実の仕事人生では、社長としての時間が長かったため時に戸惑うこともありましたが、貴重な経験でした。

また2年間の履修を通して、新たな仲間に出会え、一生もののライバルであり友人を得られたことも大きな財産です。このような会社経営からでは得られない経験ができる大学院での学生生活は充実したものであり、入学を迷っている方へ心からお薦めできる学びの場でした。

仕事人生が約40年という長い月日の中で、大学院の2年間はわずか5%の時間です。その5%の時間で仕事と学業を両立させたことは今後の人生にとって大きな価値のある、かけがえのない2年間だったと思います。



04

牛窪 恵 さん

有限会社インフィニティ代表取締役
世代・トレンド評論家 マーケティングライター
財務省財政制度等審議会 専門委員

**20年間支えてくれたスタッフ、
そして社会・経済に
活力という名の恩返しがしたく
「立教MBA」に進学しました。**

20年間、女性スタッフ30~40名から成るマーケティング会社を経営して来ました。恥ずかしながら長年、財務諸表は損益計算書の概略しか読めず、スタッフへのキャリアマネジメントも自己流。複雑な多変量解析も満足に理解できない今まで、近年はAIやIoTのデジタルマーケティングの活用に苦慮していました。

一方で、私は日本の社会や経済に助けられてきました。「おひとりさま(マーケット)」や「草食系(男子)」の流行語は、弊社スタッフとの絆力取材から生まれた言葉。そこから大手企業との商品・サービス開発の機会が増え、業務も拡大しました。「会計や統計、経営学を俯瞰的に学ぶことで、スタッフや社会・経済に活力を与えるべき、恩返しがしたい」。それが、立教MBAに進学を決めた、最大の理由です。

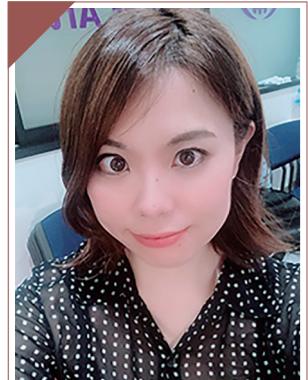
授業は多領域に及ぶ一方で、各専門分野を横断的に繋ぐ視点、いわゆる「リベラルアーツ」の考え方を学びました。何よりも、親身に指導して下った先生方、そして共に刺激し合った同期との出逢いは、かけがえのない宝物です。

ACTIVITY

現役生の活動報告

立教での学びと生活 ー院生の姿ー

ビジネスデザイン研究科で学ぶ社会人は、自分たちが学ぶ研究科を、親しみと誇りを込めて
RBS(Rikkyo Business School)と呼んでいます。ここでは現役RBS院生の声と活動をご紹介します。



熊倉 千砂都さん
株式会社江戸切子の店華硝 取締役

PROFILE

立教大学卒、横浜国立大学大学院教育学修了。憧れの教員に正式に採用されずにいたところ、家業の江戸切子の店華硝にスカウトされる。3代目として同じ立教大学卒の職人の弟と共に経営をしている。

RBSを目指した理由は、ふと自分を見つめ直す時間もったことがきっかけでした。年齢も重ね、これから的人生で自分は何をしたいのか、改めて自分に何ができるのかを整理したいと考えるようになりました。これまでの経験を体系的に振り返る、また、更なる成長ができる場所はビジネススクールであると考え、志しました。

2020年は新型コロナウイルスの影響もあり、経験したことのないオンライン講義でしたが、どこでも受講ができることによる仕事や家庭との両立に助かる面も多く

ありました。理論と実践の両方を学ぶことができるRBSの学びの多くは、すぐに実践に活かせるものが多く、学んだ知識をアウトプットすることで更なる学びを得られています。

また、講義から得られる学びだけでなく、教員の方々、共に学べる仲間やOB・OGの方々との繋がりこそが財産であり、学びを深めてくれると感じています。毎日が刺激的で、常に学ぶ環境が整っている充実した時間がここにはあります。

PROFILE

大学卒業後、社会人サッカー（JFL）に属しながらIT企業に就職。
現在はオリンピック関連の仕事に従事しているが、サッカーとの両立をする中で3回転職し、マネジメントや様々な職種を経験。



平岩 宗さん
独立行政法人日本スポーツ振興センター 勤務

PROFILE

大学卒業後、社会人サッカー（JFL）に属しながらIT企業に就職。
現在はオリンピック関連の仕事に従事しているが、サッカーとの両立をする中で3回転職し、マネジメントや様々な職種を経験。



松井 達則さん
人材開発コンサルティング会社 役員

2年前に今の会社で取締役になり、激変する市場の中でどうすればお客様に選ばれ続けるのかを考える日々が始まりました。全く先が予測できない時代においても、チャレンジングな経営を行えるようになりたいと考え、母校である立教大学のビジネススクール（RBS）の門を叩きました。

入学後はもともと興味のあった戦略論やマーケティングはもちろんのこと、苦手意識のあった会計学や統計学も意識的に学んでいます。どの授業も実践的なワークや

ディスカッションが多く、すぐに実際の経営に生かしています。

RBSには様々な業界から、非常に意欲的な人達が学びに来ています。名物のビジネスシミュレーションなどを通して、多様な仲間と創造的なディスカッションをする時間は、私のビジネス人生を大変豊かにしてくれます。

ビジネスで新たなチャレンジをしたい方、自分のビジネススキルを高めたい方、ぜひRBSで共にエキサイティングな日々を過ごしましょう。

PROFILE

外資系金融会社の管理職を経て、人材開発コンサルティング会社に転職。
現在は取締役を務めている。

院生の活動報告

ビジネスデザイン研究会

事業構想力の醸成につながる研究会活動、RBSの魅力を学内外に伝える広報活動、院生自治など幅広い役割を担う伝統ある研究会です。



プランディング研究会

様々なバックボーンを持つ参加者により、複合的なコミュニケーションが生まれているブランドマーケティングの勉強会です。



BizCom編集部

ビジネスデザイン研究科の有志によるニュースレターであり、院生の様子、授業の様子など旬な情報をお伝えするツールです。



ホスピタリティ研究会

自己を取り巻くビジネスシーンにおいて、如何にしてホスピタリティを実践するか、という思考プロセスを導く研究活動が特徴です。



JBCCへの取り組み

院生の一大イベントとして位置づけられる、実在の企業再生案件に基づいた戦略提言を競うビジネス系大学院生の大会です。



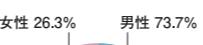
ビジネスデザイン立教会

修了生相互の交流や学びの機会の提供、現役院生との研究会など、修了後のネットワーク維持・研究科の発展のために活動しています。



2020年度入学者データ ※社会人入試のみ

性 別

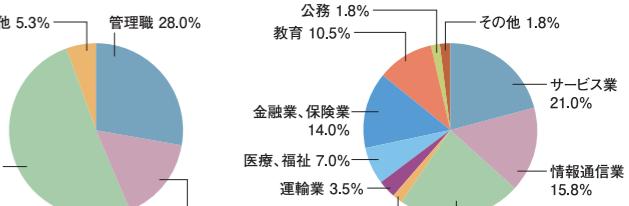


年 代



性 別

年 代



業 种